

Def Doc No. 1782

極東國際宣事裁判所

亞米利加合衆國 其他

對

荒木 貞 夫 其他

宣誓供述書

供述者 小屋 迫 要

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上
次ノ如ク供述致シマス

一 私ハ明治三十年五月二十一日本籍地熊本縣阿蘇郡柏村二灣本一、四六八番地ニ生レ現在モ眞處ニ住ンデ居リマス
ニ私ノ經歷ノ大要ハ左ノ通りデアリマス

昭和三年陸軍士官學校卒業

昭和十六年ヨリ約三ケ年大阪陸軍幼年學校附

昭和十九年ヨリ獨立歩兵第百工十六大隊長トシテ華南方面ノ作戰ニ從事（當時少佐）シ終戦ニ至ル

三 昭和十九年六月第二十三軍ノ柳州攻略ニ伴ヒ私ノ大隊ハ先ツ廣東附近ヨリ台山附近ニ進出後北轉シテ西江沿岸ノ要衝デアル梧州方面ニ作戰行動致シマシタ、此ノ行動ハ七月上旬ヨリ約一ケ月ニ亘リ強行軍ヲシマシタガ思ハザル頑敵ノ抵抗ニ遭ツテ戰鬪ヲ爲シ急激致シマシタガ所命期日ヨリ約五日程遅レマシタ

本期間ノ戰鬪デ將校以下數十名ノ死傷者ヲ生ジ武器彈藥ノ損耗モ甚タシク多數ニ及ビマシタ

四 我部隊ハ平素軍司令官及關係上司ヨリ嚴肅ナル軍紀ノ保持ニ付キマ

シテ嚴命ヲ受ケテ居リマシタ。ソレデ燒クナ、殺スナ、掠ルナノ三禁ヲ標語トシテ此命令ニ違反シタ者ハ私ノ部隊ニハ絶對ニ一人モアリマセンザシタ、此ノ上司ノ主旨ハ克ク部下將兵ニ徹底シテ居リマシタノデ支那人民ヲ殺シタリ、支那人ノ住家ヲ燒イタリシタ者ハ絶對ニナカツタコトヲ私ハ茲ニ確言致シマス

五 日本軍ノ行動ト直接關係アリマセンガ當時台山北方約三里程ノ谷合ヒノ部落ニ共產除奸團員ヲ中心トスル三社隊自衛團ト云フ武装團體ガアリマシテ其ノ數八百ニ及ビ全員小銃又ハ拳銃ヲ所持シ周邊部落民ヲ常に壓迫シ居ルトノコトデアリマシタ

六 私ノ部隊同年六月下旬台山周邊ニ進出シ更ニ進軍スルコトニナリマシタガ廣東周邊カラ僱入レマシタ人夫ガ故郷ヘノ歸還ヲ希望シマシタノデ部隊デハ充分ノ日當及手當ヲ與ヘ且衣服マデ給與シテ之ヲ故郷ニ歸シマシタ其ノ時續ツタ人夫ハ廣東カラ同行シタ者ノ約半數位デアリマシタ、此等ノ人夫カ途中前記ノ共產部落ヲ通過スルトキニ共產部落ノ者達ニ金品ヲ掠奪セラレ或ハ慘殺、強姦等ノ蠻行ヲ受ケ再ビ台山周邊ニ

引キ返シ豫テ共產部落民ヨリ壓迫ヲ受ケテキタ周邊部落民ト共ニ報復
行爲ヲ爲シ右共產部落民ト流血ノ慘事アリタル由聞キマシタガ中國人
同志ノ間ノコトデアリ一日モ早ク梧州ニ到達スヘキ任務ヲ有シテ作戦
行動ニ多忙デアリ先ヲ急イデ進軍シタノデ其ノ事ハ夫以上知ツテ居リ
マセンガ台山附近デ殘虐行爲等ガアツタトシタラ此ノ事カ誤リ傳ヘラ
レタノデハナイカト思ヒマス、私ノ部隊ニハ殘虐行爲ナドハ絶對ニア
リマセンデシタ

セ以上ニヨリ私ノ大隊ノ行動ニハ純然タル戦闘行爲ノ外何等ノ不法行爲
ハアリマセンデシタ

ハ別紙略圖ヲ添附シマシタカラ台山附近ノ状況カ判明スルト思ヒマス

昭和二十二年（一九四七年）六月十五日於東京

供 述 者 小 須 迫 要

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於同所

立 會 人

今 成 泰 太 郎

Def Doc No. 1782

誓
フ

良心ニ従ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ

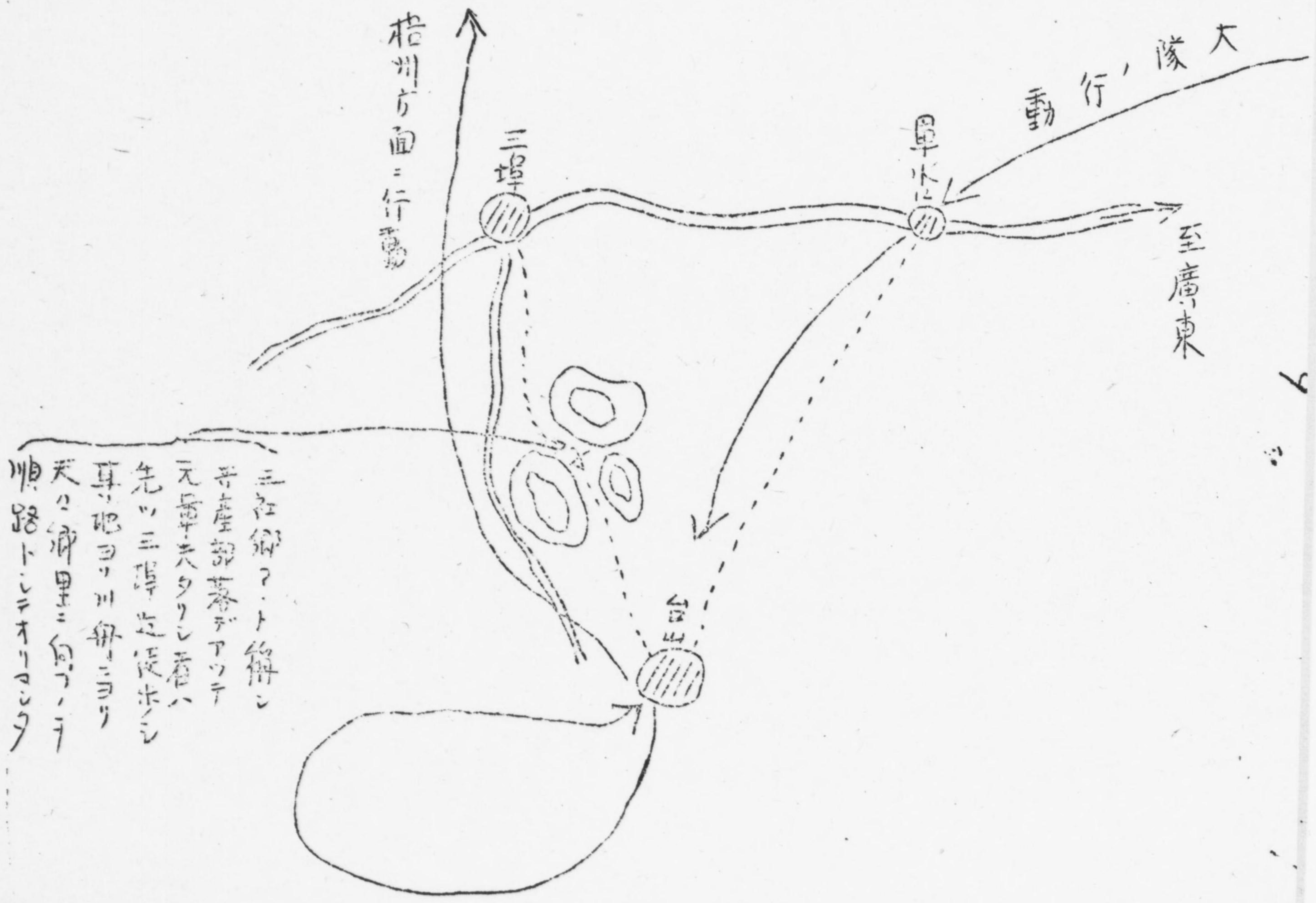
宣
誓
書

署名捺印

小
屋
迫

印

5



Box #1782